



医療法人 徳洲会

中部徳洲会病院



明けない夜はない



沖縄県の特徴

沖縄県でも高齢化が進んでいる、そして出生率は他県をしのぐ程高い。
そこではあらゆる種類の医療を必要としている。必要とされる事で「経験」を得ることが出来る。

1
中徳の救急外来って子供も
たくさん診る機会多いってよ！

2
知ってた？
沖縄県の出生率って47年連続
日本一なんだって！

3
子供だけでなく、高齢者や海外
の方も多く来るらしいよ。方言
とか英語しゃべれるかな～

4
だって、沖縄って1/5が高齢者だし、
病院がある北中城村は女性が日本一
長寿などこなんだって

5
多いときは月に600名の外国
の方が受診するんだってよ！

6
中徳研修の一番の大仕事は
救急外来を守る事だよ

7
一つ上の先輩は去年コロナ禍で
患者減ったにも関わらず一年間
で一人平均1,000人以上の患者
さん診たらしいよ

8
先輩に憧れて中徳選んだんだけど、病院の人に聞いた
ら年間ウォークインの救急患者さんは約2万人、救急
車は約6千台は受け入れてるらしくて地域医療を守る
大切な仕事だね

9
私もその研修がしたくて選んだ。大変だけどサポ
ートもあるし皆で乗り越えていこう！何よりこの地
域の為に頑張ろうぜ！

10
何より離職率が8%弱らしく、
働きやすくて残る先輩も多いから心強いね！



中徳の3つの強み

研修医教育を
行うのは
全職種・全職員！

20年以上前から中徳の新入職オリエンテーションは全職種合同で行ってきました。医師だけでなく、他部署の職員とも同期の絆を育むことが目的です。これは、病院が必要に応じて一丸となれる大きな要因になっていて、全職員で研修医を優しく・厳しく育てる空気感につながっています。上級医はもちろん、院内の職員すべてがあなたのメンターです。多様性多角性に富んだ成長のきっかけをあなたもつかんでみませんか？

ここが離島ならどうする？！
これが学ぶ
モチベーション！

中徳研修のメインイベントは2年次の離島・僻地研修です。これを乗り越えた研修医の力と責任感の充実ぶりにはいつも驚かされます。離島僻地においては上級医・専門医がすぐに来られない状況も多い。初期対応は…？島外搬送する…？島外から専門医を呼ぶ…？今の君に判断できますか？中徳1年次は「離島ならどうする？」と上級医から何度も聞かれることになります。あなたも離島僻地研修を一つの目標として挑んでみませんか？

働け。学べ。
そして
思いっきり休む。

当院は自他ともに認めるハイパー病院です。とても忙しいことは覚悟してきてください…とすべての見学者に伝えていきます。…これが何を意味するか？
中徳を選んだ同期研修医はすべてあなたと同じ、あるいはそれ以上の「やる気」を持っているという事です。当然、かつてこの研修をも乗り越えた上級医たちも同様です。やる気にあふれた上級医・研修医達とオンオフの明確なハードワーク・ハードトレーニングを当院で行いませんか？

離島医療でも通用する技術、 教育者による診断学の両方が学べる

僕らが 研修医だった頃

仲間：僕が中部徳洲会病院に研修医として入ったのは12年前。出身地の熊本で研修するつもりがどこの病院も同じに見えて、中徳の見学にきました。その時、研修1年目の先生が救急車で入ってきた患者さんを自分で診察してICUまで上げているのを見て「この病院はなんか違うぞ」と。自分もこの中に入ったらまともな医者になれるんじゃないかと思ったのがきっかけです。

轟：僕と仲間先生、村上先生は初期臨床研修制度がスーパーローテート方式になって3年目の世代で、僕も最初は地元の福岡で救急病院を回りました。でもなかなかピンと来ない中で、琉球大学医学部だったこともあり「いちおう沖縄も見ておくか」と見学に来たら、研修1～2年目の先生たちが忙しそうにだけど輝いて見えな感じです。

仲間：たまたま僕と轟先生は見学が同じ時で、終わる頃

には二人とも「来年一緒に頑張ろうな」って気分になってたよね（笑）。

村上：僕は宮城県出身ですが琉球大学医学部だったので沖縄に残ろうという気持ちはなんとなくあって、中部徳洲会病院と同じ臨床研修病院群プロジェクト「群星沖縄」の沖縄協同病院に入りました。当時、沖縄は研修医の育成に関して日本全国で最も先進的だと注目されていたしね。

仲間：「7つ（現在は8つ）の病院が集まって研修医を育てます」という群星沖縄のコンセプトはたしかにキラキラしてたよね、あの頃、他県ではありえないことだったから。

友利：僕は沖縄出身で広島大学に進学しました。世代は4年下ですがやはり沖縄の初期臨床研修は有名で、せっかくなら忙しすぎて評判が悪いぐらいのところで鍛えようという感じで（笑）、中徳へ。想像をはるかに越えていて「医者ってこんなに大変なんだ」と思ったことを覚えています。

「この病院にしかないものが
絶対あるので、
それを一度
見に来てください。」

研修委員長
仲間 直崇
NAOTAKA NAKAMA
消化器内科



中部徳洲会病院で 研修するということ

仲間：僕らの病院は他より群を抜いて忙しく、しかもそのことを研修医を誘う際にいっさい隠していません。そういう意味では、同じモチベーションを持った人が集まりやすいという環境が、10数年前も今も変わらずキープできてますね。

轟：年に2回、沖縄の研修医150名を集めて実技試験を行うんですが、うちの研修医の対応が他と格段に違うなと感じたのが小児科の対応。ふだん救急時も専門医が控えつつ、あえて研修医に診察させていることもあってスキルが高い。手技だけでなく父母への対応など、他の病院の先生方はできないんですね、やったことがないから。

仲間：あとスーパーローテート方式の威力というか、横のつながりが大切だと感じてきた若い世代の僕らが研修

委員会を作っているというのも面白いし、よくやらせてくれたと思いますね。

村上：いいことですよ。もっと言うと沖縄の他の病院の研修委員会と違うのは、いったん県外に出た経験のある人間だけで構成されているということ。外の世界を知っているというのは大きなメリットだと思いますね。

友利：自分自身の経験も含めて、研修のハイライトといえば離島研修ですね。卒業した3年目の子たちと話しても、やっぱりあの時期が一番成長するんですよ。離島・へき地というのは想像以上に環境が厳しく、いつもの診察室で簡単に提供できる医療やこれなら救えるという病気を治すのにとても苦労するんです。そんな地に研修として派遣されるんですけど、島の方々からすれば研修医じゃなくて、もう、一人の医者なんです。

轟：その時に気付くんですよ、僕はこの時のためにこれまで厳しいトレーニングを積んできたんだ、と。離島では2年目の若い研修医であってもとても尊敬されます。で、そこで天狗になってしまうのかというと、なら

ない。逆に「じゃあもっと勉強しなきゃ」と思うんです。だから本当にみんないい医者になって帰ってきますよね。現代の日本において島の医療というのは研修としてのものすごく意義のあるところじゃないかな。

友利：都市圏の高度な医療もちろん大事です。でも日本はそれだけで成り立ってはいなくて、そんな医療を受けられない人がいっぱいいる。うちでやっている離島・へき地医療は本物だと思います。患者さんの生命感も、自分の無力さもありリアルに肌で感じます。だから成長する。僕は救急で研修医を指導している時、常々「これを一人でやるんだぞ。でないと救えないぞ」と厳しく言うんです。彼らの想像を絶する数の患者が押し寄せた時にとっさに出てくるか、そういうトレーニングをさせているつもりではありませんね。

仲間：離島に行った時、彼らは生まれてはじめて“主治医”になります。医者が一本の木で、ガイドラインや知識が葉っぱや実だとしたら、それを吊るす幹を育てるのが離島研修だと思いますね。

未来の後輩への メッセージ

村上：医者である前に、一人の社会人であるということが大前提。患者さんベースで考えた時に、プロとしてどう責任を果たせるのか。そしてこの2年間で修行になっちゃいけないと思うんですよね。「自分は外科医になりたいけどとりあえず義務なので2年間頑張ります」という姿勢ではなくて、本来の意味をちゃんと理解して研修に臨んでほしいと思います。

轟：過酷な離島医療の現場でも通用する知識や技量を得られる徳洲会の研修と、様々な教育者から診断学を学べる群星沖縄の学術との両方が味わえるので、最初の2年間は忙しい病院で頑張りたいという方にはぜひ来てもらいたいですね。

仲間：正直、想像以上にハードな職場ですが、来たら大歓迎。めちゃくちゃ厳しい経験をさせるけれど、でも絶対に一人で倒れさせません。そこは約束します。一緒に倒れることはあるかもしれないけれど（笑）。そして僕たちのように一度県外へ出て戻ってきた医者、ずっと中徳で頑張っている医者と先輩の胸が揃ってきているので、ギリギリのラインを見極めた厳しい教育というのが、さらにこれからできるようになると思います。

友利：少なくとも初期臨床研修において必要な気力、体力、知力は保証します。また、この病院は全部自分で実践させるので、見たいもの、見るべきものは全部、自分の目で見れます。鍛えたいと思う人はぜひ来てください。

仲間：間違いないのは、中部徳洲会病院での研修を乗り越えたら、他のどんな病院へ行っても楽だということ。そして、こんなに病院の未来にワクワクしている30～40代の委員長、副委員長が研修委員会を作っている病院はそうそうないはずです。この病院にしかないものが絶対あるので、それを一度見に来てください。

「現代の日本において
島の医療というのは
研修として
ものすごく意義のある」

副研修委員長
轟 純平
JUNPEI TODOROKI
循環器内科／血液内科



「都市圏の高度な医療も
もちろん大事です。
でも日本はそれだけで
成り立ってはいない」

副研修委員長
友利 隆一郎
RYUICHIRO TOMORI
救急総合診療部





彌富 健太
KENTA IYADOMI

私と中部徳洲会病院の出会い

中部徳洲会病院との出会いは、私が大学4年生の秋の合同説明会だったのでしょうか？私とはもともと関東出身、大学は九州であり、周囲に高校の同期はおろか、知り合いも少なく、初期研修先も決めかねておりました。その際にたまたま立ち寄った沖縄ブースでおしゃべりさせていただいたのが全ての始まりでした。

高校時代から、医師を目指しており、たまたま徳洲会グループで働く高校の先輩のお話を伺う機会があり、徳洲会の理念や徳洲会がどのようにして成長していったのかという話を聞いた際に、16・7歳の私なりに、

とても感動したことを今でも覚えています。その後、高校を卒業し、無事に医学部に入学させていただいた私が、再び徳洲会に出会うとは。。。

話は戻って、大学4年の合同説明会。たまたまいらしていた先生方のお話を聞いて、高校時代に聞いた話は本当に存在したと言うことを知り、私の中になにか電撃のようなものが走りました。また、お話をした先生の兄弟が私の高校の同級生ということも知り、またしても、私の中に電撃のようなものが走ったのでした。数分の間に2回もこのような経験をした私に、このような病院を見学しないという選択肢などなく、その段階で、特に予定も決めずに「今度見学に行きますのでよろしくお願いします！」と、気づいたときには言っていたのでした。

実際に見学して

見学前に、大学の同期と情報交換をしているときに「すごく忙しいらしいけど大丈夫？」などと聞かれましたが、特に気にせず、なんだかんだで、私は3回ほど見学させていただくことになりました。そもそも沖縄に行くこと自体、あまりなかった私にとっては、病院見学はもちろん、食文化や生活感など全てが初めての体験でありました。

見学では、初期研修医の先生方につかせて

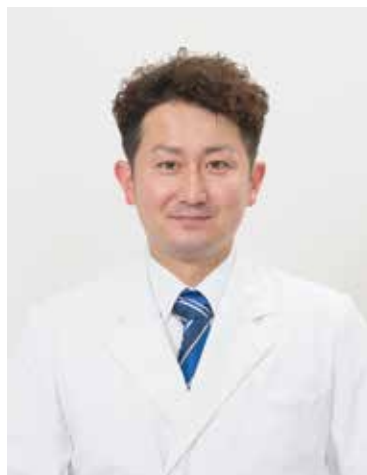
いただいたわけですが、上級医の先生方と初期研修医の先生方の距離感がとても近いこと、また、コメディカルの方々も何かと研修医のことを気にかけている印象を受けておりました。ハードワークをされている印象が強かったわけですが、勉強会の機会が多いことも見学をさせていただいて驚いた点でした。ただ、手を動かしているのではなく、考えて手を動かしているということを見学を通じて感じておりました。地域医療の離島見学もさせていただいたのですが、離島では、自身が主治医として、また、自身のレベルが地域の医療レベルを左右する環境と感じました。そして、そこを目標に、また、そこで学んだことを今後の研修に活かしていくことが当院での研修の醍醐味であるとも感じました。こうしたことから中部徳洲会病院で研修をすることに決めました。

中部徳洲会病院で成長すること

4月より中部徳洲会病院で研修医として、働かせて頂いておりますが、ほぼ毎日実力不足を痛感することがあります。ただ、救急外来や病棟などで様々な経験をしながらも少しずつ成長できているのかなと感じております。実際に経験した症例から反省や学びを得る事ができるのは、救急外来などでの症例数が多いからこそできることではないかと感

じます。また、疑問に思ったことをすぐに上級医の先生に聞くことができるという環境・距離感もまた、当院の特徴であると実際に感じました。この病院で研修をされたことのある先生も多いからこそ、時には厳しく時には優しくご指導していただくことで、成長や新たな気づきがあります。以前、機会があり、学生のときに見学させていただいた、離島に再度、今度は研修医という立場で行かせていただいた際にも新たな気づきがありました。地域研修に参加している先生方は2年目の研修医の先生方です。そういう意味では、1年後の自分の姿をイメージしながら1年上の先輩方を見ることができ、そういう意味では、学生時代とは離島研修の見え方が違いました。

入職してから数ヶ月。手技はもちろんですが、救急外来を中心に様々な症例を経験させていただきました。そして、1年後には、地域研修に参加している訳ですが、果たして、私は1人前の医師になっているのでしょうか。恐らく、この文章がパンフレットになっている頃には月日もそれなりに経っており、より経験も積んでいることだろうと思います。少し将来の自分にプレッシャーをかけながらも、研修医として頑張っている私達と一緒に成長してみませんか？私達、研修医1年目を来年の“自分”に重ね合わせて見学しに来てみてください。忙しくもその分成長できる環境、それが中部徳洲会病院です。



野澤 勇哉

YUYA NOZAWA

この病院で共に成長しましょう。

私は4年間の浪人を経て医学部に入り、医学部5年生の時に初めて中部徳洲会病院の見学に来ました。ずっと内地に住んでいた自分ですが、綺麗な海が見え、人も温かいこの病院で、いつか自分も働きたいと思いました。今ではここで医師として働いていることが夢のように感じます。ただ、入職してみるとやはり毎日毎日忙しい日々。知識も経験も乏しい自分の目の前にどんどん患者は現れ、逃

げ出したくなるような時もあります。それでもこの病院は、どんな先生方も、どんなスタッフの方も、私の些細な悩みや質問に対して答えて頂き、垣根なくコミュニケーションを取り、手を差し伸べてくれます。ふと通りかかった先生が「時間あるなら今度のオベ、入ってみるか？」などと声をかけてくれたり、採血の練習させて下さいと頼めば、機会を与えてくれる看護師さん達がいいます。

どんな小さなことでも一つ一つできるようにしていこう、そんなふうに思わせてくれるのがこの中部徳洲会病院です。

初期研修医期間は2年間と短いものかもしれませんが、医学生の皆さん、ぜひこの病院で共に成長しましょう。お待ちしております。



糸洲 真希子
MAKIKO ITOSU

自分が主体で医療を行える病院

中部徳洲会病院では、初期研修医1年目が主体となり救急医療を展開します。はじめは右も左も分からないような状態でスタートしますが、2年目の先生をはじめ上級医の先生、コメディカルの方々のサポートが常にあるので安心して仕事に取り組めます。

当院の最大の強みは「自分が主体で医療を行えること」だと思います。初期研修医は覚えなければいけない事が多いのですが、自分が主治医となって診察、検査、治療を行うことで強いエピソード記憶となり効率よく記憶が定着し、成長につながります。もちろん日々の復習、勉

強は欠かせませんが、それに自分主体の医療の経験が重なることでとても充実した研修生活を送ることができます。時には主治医としての責任の重さ、知識・経験不足、技術の拙さにストレスを感じることもあります。それも含め全てが自分を高めてくれる栄養分となります。

初期研修医1年間で過ごし終え、中部徳洲会病院を研修先として選んで良かったと心から思っています。徳洲会病院はいわゆる「忙しい」「きつい」「QOLが低い」などのイメージをもたれがちですが、実際は休みは意外と取れますし、きついけれどその分学べ、成長できます。

何より自分主体の医療は楽しいです。ただ先輩医師の医療を見学するよりも実際に自分で考え、調べたことを実践できる方が楽しいと感じるはずです。QOLは低いと感じたことはなく、むしろメリハリのある生活ができており、研修する前に当院に抱いていた印象は良い意味で私を裏切り、満足の行く研修生活を過ごすことができています。

充実した研修生活を送りたい方、まずは見学にきて実際の中部徳洲会病院を肌で感じてみてください。



吉田 裕介

YUSUKE YOSHIDA

日々心の筋トレ

2年間の初期研修を振り返ってみるとあっという間に時間が経ってしまいましたが、最初から最後までビビるという事は無くなりました。2年目は救急で1年目を教育したり、全体のマネージメントが主ですが、忙しいときはファーストタッチも頑張ります。やろうと思えば概ね何でもさせてくれるのが中徳です（笑）。研修先を選んだ理由はここにいる人間

ですが、実際に働いてみて、患者さんが多過ぎてキツいと思う日もありますが、周囲のサポートがあり色々乗り越えてこられたと思います。同期は仲良しと言うよりはそれぞれが戦っていて、どっちかと言うと切磋琢磨する関係です。

上級医の先生方はいつ何時でもつかまえば相談に乗ってくださり、厳しくも良い人が多いです。

一言で表現すると「日々心の筋トレ」です。

当院に合う方は実際に来てみて、楽しそう！働いてみたい！と思っちゃったあなたにはおすすめです。データ的な部分で選ぶのはおすすめしません。一度見学に来てみてください。

医師としての理想像、未来像について共に考え、頑張っていきましょう！

院長あいさつ



大城 吉則

日本泌尿器科学会 泌尿器科
専門医・指導医

徳洲会グループの基本理念は、「生命だけは平等だ」です。当院は、1988年4月に開設以来、地域の中核病院として、この理念を実現するために“24時間救急対応、断らない医療”を病院スタッフだけではなく、研修医の先生方と共に一丸となって実践してきました。当院の2年間の初期研修においては、救急医療、高度先進医療だけではなく、慢性期および在宅医療そして離島・僻地医療など、すべてを経験することが出来ます。

皆さんがこれから対峙しようとする患者さんは、身体的および精神的にも痛みを伴った弱い立場の方々です。「良い医師」とは患者

さんの痛み・苦しみを理解しようとする「人間性」とその方法を追求する「実力」、双方の均衡が取れた医師のことです。初期研修の2年間は、医師そして一人の社会人として最も大きく成長する貴重な期間となります。地域医療に貢献しながら、多くの人と出会い、学びや経験を積み、みなさんが大きく胸を張って「良い医師」として羽ばたいていただけるよう、我々、中部徳洲会病院スタッフ全員でサポートしていきます。医師としての理想像、未来像について共に考え、頑張っていきましょう！

臨床研修病院群プロジェクト 群星沖縄（むりぶしおきなわ）



沖縄で良い医師を育てる

群星沖縄プログラムとは、よい医師を育てるという一点で協力し、管理型病院と協力型病院・施設で病院群を形成して相補的に研修医教育を担う臨床研修病院群プロジェクト

8 基幹型病院 × 29 協力型病院・施設

群星沖縄 HP



研修スケジュール（例）

救急医療とプライマリーケアを中心とした現場を重視したプログラム構成で強い医師を育てます。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科						外科		救急部門			小児科
	救急総合診療部											
2 年次	小児科	地域医療		産婦人科	精神科	麻酔科	自由選択					
	救急総合診療部											

へき地 離島研修

研修医は離島に行った時、
生まれてはじめて
“主治医”になる。



離島研修で学んだこと

こんにちは。中部徳洲会病院2年次研修医の玉城浩人です。離島研修について話させていただきます。

当院では2年次に2ヵ月間の離島研修があり、私は鹿児島県奄美群島南西部に位置する沖永良部徳洲会で研修しました。離島研修はこれまでの1年間とは全く違った経験を積めました。まずは患者さんの主治医となることです。外来や救急で対応した入院患者さんは上級医やコメディカルの助けを借りながら主治医として管理を行っていきます。これまでの研修1年間の力が試されます。1年次は救急を中心に初期対応を、その他内科、外科で入院管理を学びますが、へき地医療ではまさに初期対応の能力と入院後の管理する力が求められます。

思い返せば、救急で入院を入れた時、上級医や先輩研修医から入院後の管理を視野に入れて、対応するようにと指摘されることがあ

りました。「離島では入院後は自分で管理しないといけないよ」と。例えば、どれくらい抗菌薬を継続し、自宅に帰れるのか施設に行くのか、食事は摂れるのか、家族との関係性は良好かなど、単に医学の知識だけでは不十分でコメディカルの方と協力し社会的な調整を行う必要があります。このように離島研修で医師として総合的な力を身につけることができます。離島研修では内科外来も行います。

内科外来では糖尿病や高血圧症など慢性的な疾患の治療を主に行いますが、これまで救急外来で高血圧を認めたとき、緊急性がない場合は後日の内科受診を指示してきた身としては勉強不足を実感させられました。定期的には血糖値や血圧をフォローし内服量の調整や薬剤の変更を検討します。その他、二次検診の結果説明や透析患者の回診、訪問診療なども行います。離島医療の大きな特徴として島外への緊急搬送があります。離島では人材と

医療資源に限界があり、急性心筋梗塞やくも膜下出血などではドクターヘリや自衛隊ヘリにて沖縄や奄美大島へ搬送が検討されます。搬送は天候に左右されるため、搬送できずに亡くなってしまうケースもあり、離島医療の限界を痛感しました。徳洲会グループは離島のマンパワー確保のために、主に都市部の病院に所属する医師などが診療支援を行なっています。そのスタッフの効率的な移動を助けているのがセスナ機の「徳洲号」です。徳洲会グループは地域の関係機関と連携を取りながら離島医療に携わっています。

最後になりますが、もちろん仕事だけではありません。スタッフとの食事会であったり、海で遊んだり、地域のスポーツクラブに参加したりと離島ならではの親しい雰囲気の中で休日はリフレッシュできます。医師として成長でき、楽しい離島研修を行いたいなら是非当院へ。

玉城 浩人

HIROTO TAMAKI

OKINAWA MAP

仕事で「忙しさ」を満喫したら
オフには自然や文化で「沖縄らしさ」を満喫



沖縄は、かつては琉球王国という独立国家として栄え、
終戦後はアメリカの統治下にあった、
この地ならではの独特の文化があります。

南部

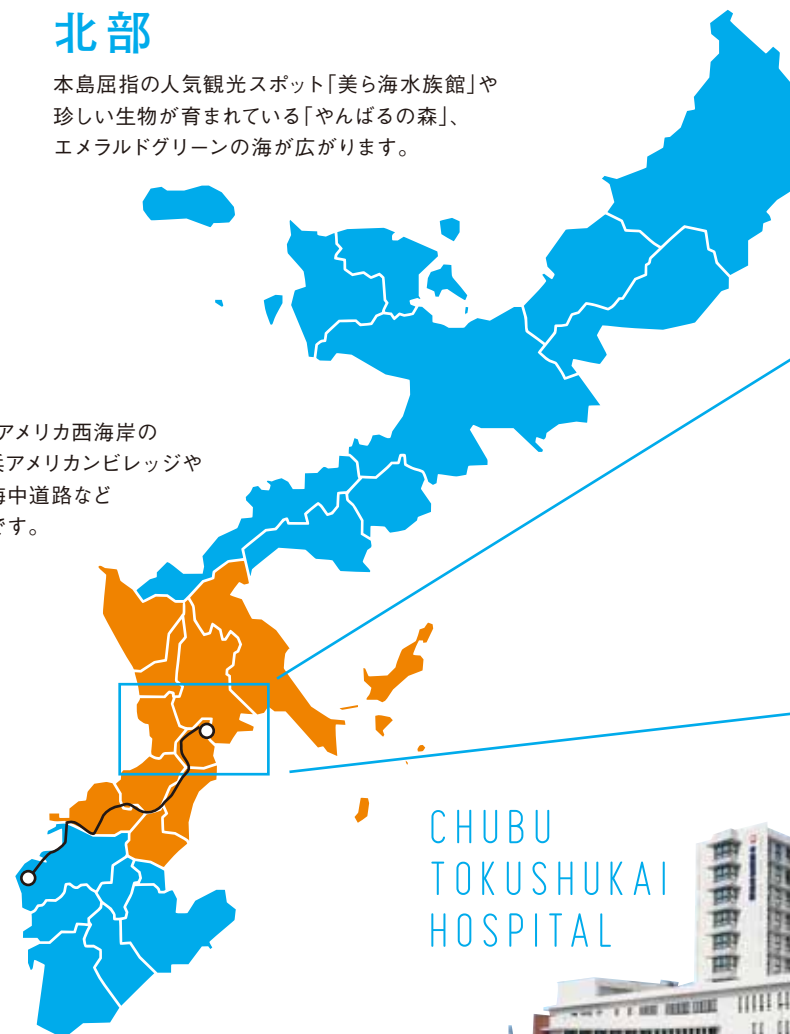
沖縄の入り口。最も観光客の多い
「南部」沖縄の深い歴史と
観光スポットが満載の地域です。

中部

米軍基地もあり、アメリカ西海岸の
雰囲気が漂う美浜アメリカンビレッジや
全長約4.7kmの海中道路など
魅力満載の地域です。

北部

本島屈指の人気観光スポット「美ら海水族館」や
珍しい生物が育まれている「やんばるの森」、
エメラルドグリーンの海が広がります。



CHUBU
TOKUSHUKAI
HOSPITAL



中部



A イオンモール沖縄ライカム

2015年4月にオープンした県内最大規模のショッピングセンター。約220店舗が集結し、ショッピングはもちろん沖縄・日本のグルメやエンターテインメント、美しい景観が楽しめる、話題のリゾートモール。



B 美浜アメリカンビレッジ

アメリカンテイストのお店が立ち並び異国情緒満載の施設。米軍基地のハンビー飛行場跡にアメリカの街並みをモデルに作られた。食事や買い物はもちろん、映画館、海水浴場、ホテルと何でも揃っている。



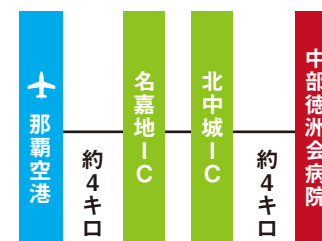
C コザ・ミュージックタウン音市場

アメリカをはじめとした多国籍文化が集まるエリアで沖縄の音楽文化を発信するミュージックタウン音市場では、様々なライブやイベントが行われています。

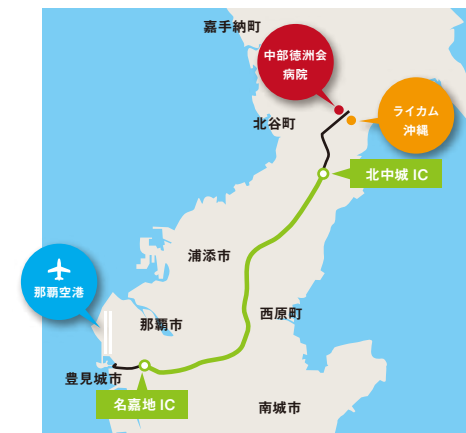
那覇空港からのアクセス

那覇空港から車で40分

沖縄自動車道ルート（有料）が便利

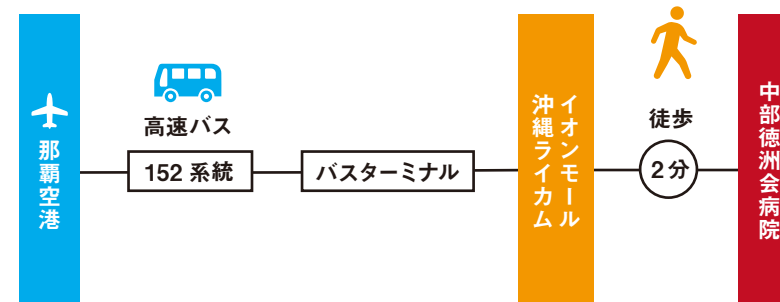


北中城IC出口右折(県道29号線) → 第一安谷屋交差点を左折(県道81号線) → 石平交差点を右折して北上(国道330号線) → ライカム交差点を右折 → 県道85号線沿い 約1Km



那覇空港から高速バスで40分 (料金：片道990円)

那覇空港 ⇄ 中部徳洲会なら高速バス152番が便利



about OKINAWA

沖縄ではたらく魅力 先輩からのメッセージ

青い海に青い空、リゾート地として有名な沖縄県。都道府県の魅力ランキングの上位常連です。
先輩に沖縄のどの部分に魅力を感じているのか？沖縄で学ぶ人へのアドバイスなど聞いてみました。

from

SEOUL

金 秀珍 先生
韓国 ソウル大学卒



グローバルな雰囲気が
きつといい経験になる

研修先を沖縄にした理由

綺麗で異国的な自然景観に憧れて沖縄を選択しました。病院からもすぐ海が見えるので、天気がいい日は病棟や外来で外を眺めるだけでも満足度がアップしてます。外国人の患者さんに接する機会が沢山あると思い、沖縄を選択しました。

沖縄で感じたこと、驚いたこと

私は主に東京とソウルで暮らしていましたが、沖縄に来てみて意外と大都会よりも住み心地が良くてびっくりしています。家族と一緒に来ていますが、公園もいっぱいあり、子供たちも楽しく過ごしています。人達も皆やさしいです。

これから沖縄で学ぶ人へのアドバイス

ERや小児科外来はほぼ毎日外国人患者さんに接する機会があります。院内に通訳の方もいますが、通訳なしで自ら診察するのも可能なので将来国外でのキャリアを考慮している人にとっては当院のグローバルな雰囲気がきつといい経験の機会になると思います。

from

FUKUSHIMA

片方 康博 先生
福島県立医科大学卒



見学に来れば秒で分かります。
百聞は一見に如かずです。

研修先を沖縄にした理由

寒いところに住んでいたのが暖かいところに住もうとおもって沖縄にしました。働いて思いましたがやっぱり沖縄はめっちゃ最高ですね、ここでは言い尽くせません。見学に来れば秒で分かります。百聞は一見に如かずです。

沖縄で感じたこと、驚いたこと

思っていたより晴れの日が少ないです。そして湿度がとても高いです、やばいです。ただそのおかげでオリオンビールが本土で飲むより比べ物にならないくらい美味しいです。

これから沖縄で学ぶ人へのアドバイス

沖縄での研修はとてもハードですが、休みの日にはエメラルドグリーンの海と雲1つない青々とした空があなたを待っています。体に溜まった疲れも一瞬で吹き飛びます。とりあえず見学に来ましょう！

from

OKINAWA

水谷 ゆうな 先生
琉球大学卒



2年間のメリハリある
ハイパー研修生活送ってみませんか？

中部徳洲会病院で働いてみた感想

当院は沖縄の中でも非常に恵まれた場所にあります！オシャレなカフェが多く外国の方も多い北中城村に位置し、目の前には巨大ショッピングモール、観光スポット北谷American villageやエメラルドグリーンの海もすぐそこ！普段生活するにもOFFに遊ぶにも最高の立地です。基地も近く外国人の患者さんも多いので英語に触れ合う機会も多いですね。救急車が多く忙しいですが多くの経験を積みながら確実に成長できると思います。2年間のメリハリあるハイパー研修生活送ってみませんか？

沖縄の「気温＋服装」

亜熱帯気候の沖縄は、高温多湿で青い海と青い空が広がっている。

しかし、海に囲まれているため天気は変わりやすくどのシーズン沖縄に来るかで服装も変わって来ます。沖縄の気候の特徴を知っておこう。

SPRING

春の服装

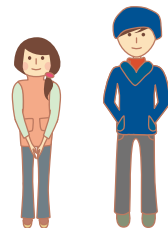
3・4・5月

平均気温

3月那覇 19℃

4月那覇 21.5℃

5月那覇 24℃



POINT

日差しは強いので紫外線対策

夕方から肌寒くなる

GW明けには梅雨入り。傘を常備

20℃を超える日が多いです。日差しが強い日もあるので、日焼け止めは必要です。しかし、朝晩は冷えるので肌寒いとすることがあります。沖縄は3月には海開きをするのですが、夕方以降は寒くなってくることも少なくありません。薄手のカーディガンを持っていると安心です。GW明けには梅雨入り。折り畳み傘を常備しましょう。

SUMMER

夏の服装

6・7・8・9月

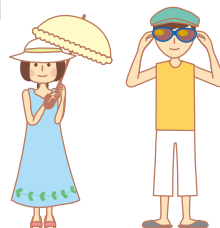
平均気温

6月那覇 27℃

7月那覇 29℃

8月那覇 29℃

9月那覇 27.5℃



POINT

半袖シャツ＋薄めのはおりもの

日中は暑いので通気性の良い服装

9月は台風シーズン

最高気温が30℃を超える日が続きます。紫外線対策をしっかりと行って、半袖やノースリーブ等、涼しく過ごせる服装が良いです。しかし、室内は冷房効いているので、急な温度差にも対応できるよう、冷房対策を意識しましょう。9月は台風が多くなるので、レインコートがあると安心です。

AUTUMN

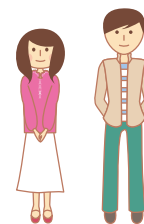
秋の服装

10・11月

平均気温

10月那覇 25℃

11月那覇 22℃



POINT

半袖シャツ＋薄めのはおりもの

日中は暑いので通気性の良い服装

サンダルでは寒いかも。

照りつけるような日差しが続く暑い夏が終わり、過ごしやすい陽気になる10～11月。天気も安定する。半袖シャツに薄めの羽織りを持っていくと快適に過ごせます。11月からは気温が低くなっていくので足元が冷えないようにしましょう。

WINTER

冬の服装

12・1・2月

平均気温

12月那覇 18.5℃

1月那覇 17℃

2月那覇 17℃



POINT

寒い日は10℃台前半コートは必要

沖縄は風が強いので防風素材が○

沖縄の冬は意外に寒い

平均気温は17～18℃。沖縄は雪は降りませんが、この時期は寒い日もあり10℃台前半になることもあります。コートを持参すると安心です。沖縄の風は強いので、ウィンドブレーカーのような防風素材のものががあると安心です。インナーは長袖+パーカーなどで調整できると良いでしょう。

沖縄臨床実習

当院の卒後臨床研修を体験して
初期臨床研修の参考にしてください！

【対象者】医学部学生4年、5年、6年、既卒者

中部徳洲会病院での初期研修

はじめまして、臨床研修センターの木村と申します。当院の2年間の研修では多くの経験や学びを得ることが可能です。忙しい時も少なくありませんが、周囲のサポートもあり皆成長して初期研修修了を迎えることができます。特に救急外来や地域研修では求められることが多いですが、成長の場として頑張っていたいております。毎年全国からモチベーションの高い学生さんが集まってきて、この沖縄という素晴らしい地域で公私共に充実した2年間を過ごし、医師人生の大切なスタートをきるすることができます。興味ある方は一度ご連絡ください。職員一同お待ちしております。



臨床研修センター 事務

木村 洋
HIROSHI KIMURA

スケジュール

ロングコース (5泊6日)
月～土曜 / 宿舎・食事・旅費往復 負担

ミドルコース (2泊3日)
月～水 or 木～土曜 / 宿舎・食事・旅費片道 負担

ショートコース (1日)
日中 or 夜間 / 宿舎・食事 負担

当院の卒後臨床研修をより理解していただくために、初期研修医、後期研修医に同行していただきます。その都度わからないこと、ご希望されることがございましたら気軽にご相談していただき、充実した実習にさせていただきます。

募集要項

【募 集 定 員】 10名
【応募必要書類】 履歴書/卒業（見込み）証明書/成績証明書/抗体検査の結果
臨床研修志願書（当院書式有り）/写真（2枚：正面脱帽3×4cm）
【選 考 方 法】 書類審査及び面接（臨床実習を通して評価）
【応募期間】 令和5年4月1日～令和5年8月31日
【マッチング参加】 参加
【問合せ先】 〒901-2393
沖縄県中頭郡北中城村字比嘉 801 番地
中部徳洲会病院
総務課/木村（きむら）
TEL(098)932-1110
FAX(098)923-1659
URL <http://www.cyutoku.or.jp>
E-Mail h.kimura@cyutoku.or.jp

処遇

【常勤・非常勤の別】 常勤医
【給 与】 一年次：基本手当/月 300,000円
賞与/年 400,000円(平成28年度)
二年次：基本手当/月 320,000円
賞与/年 640,000円(令和3年度)
※時間外・休日手当は基本手当に含む。当直手当は別途支給。
【付 加 給 与】 家族手当(配偶者:16,000円/子(第2子まで):5,000円)
交通費(通勤距離2km以上/上限20,900円)
住宅補助(家賃の半額/上限50,000円)
【勤 務 時 間】 基本的な勤務時間 8:30～17:00(時間外勤務有)
【休 暇】 有給休暇 一年次:10日 二年次:11日 その他:年間110日
※有給休暇に夏季・年末年始休暇含む
【当 直】 平均4回/月
【保 険】 健康保険/厚生年金/労働者災害補償保険/雇用保険
【医師賠償責任保険】 病院において加入。個人は任意。
増額の場合、個人負担有り
【健 康 診 断】 年2回(夜勤者等は2回、
35歳以上は人間ドックを受診)
【学 会 へ の 参 加】 年1回の参加、年3回の発表への費用支給有り
【赴 任 旅 費】 実費の一部又は全額を支給

中部徳洲会病院研修管理委員会

ご質問・お問い合わせは 総務課/木村（きむら）

TEL.098-932-1110 FAX.098-923-1659

中部徳洲会

検 索

✉ h.kimura@cyutoku.or.jp